

キリンが推進する「AIネイティブ」な研究開発：思考を止めない共創のカタチ

キリンホールディングスは、研究者の「思考の分断」という課題を解決するため、AIをワークフローに常駐させる新たな研究スタイルを2026年より導入。
AIを単なる「効率化ツール」ではなく、仮説形成から知見共有までを一体的に支援する「伴走者」と位置づけています。

従来型AI

「都度呼び出し」から

アプリを立ち上げる手間を省き、研究活動の流れの中にAIが自然に存在する環境を構築。



「思考の分断」を克服し 連続性を維持

検索や資料作成による中断をなくし、仮説形成からドキュメント化までをリアルタイムで支援。



個人の経験を

議論の履歴や思考の軌跡を蓄積し、組織全体で活用可能な資産へと変換。



新たな研究スタイル

「常時存在」へ

アプリを立ち上げる手間を省き、研究活動の流れの中にAIが自然に存在する環境を構築。



連続性を維持

検索や資料作成による中断をなくし、仮説形成からドキュメント化までをリアルタイムで支援。



「組織の共創知」へ

議論の履歴や思考の軌跡を蓄積し、組織全体で活用可能な資産へと変換。



キリングroupにおけるAI活用の位置付け



研究者の創造性を引き出す「伴走者」
AIは人間を代替するのではなく、研究者主役の設計想で価値創造の「質・量・スピード」を向上。



「KIRIN Digital Vision 2035」の実現
定型業務の削減(BuddyAI等)と、R&Dによる価値創造の両立を目指す。

研究者の創造性を引き出す「伴走者」
AIは人間を代替するのではなく、研究者主役の設計思想で価値創造の「質・量・スピード」を向上。

「KIRIN Digital Vision 2035」の実現
定型業務の削減(BuddyAI等)と、R&Dによる価値創造の両立を目指す。

適用領域	システム/施策	戦略的狙い
 全社共通業務	BuddyAI	年間31万時間の創出(定型業務削減)
 経営意思決定	AI役員「CoreMate」	多角的な視点による議論の深化
 研究開発(R&D)	本取り組み(AIエージェント)	仮説形成から初見共有までの一体支援